

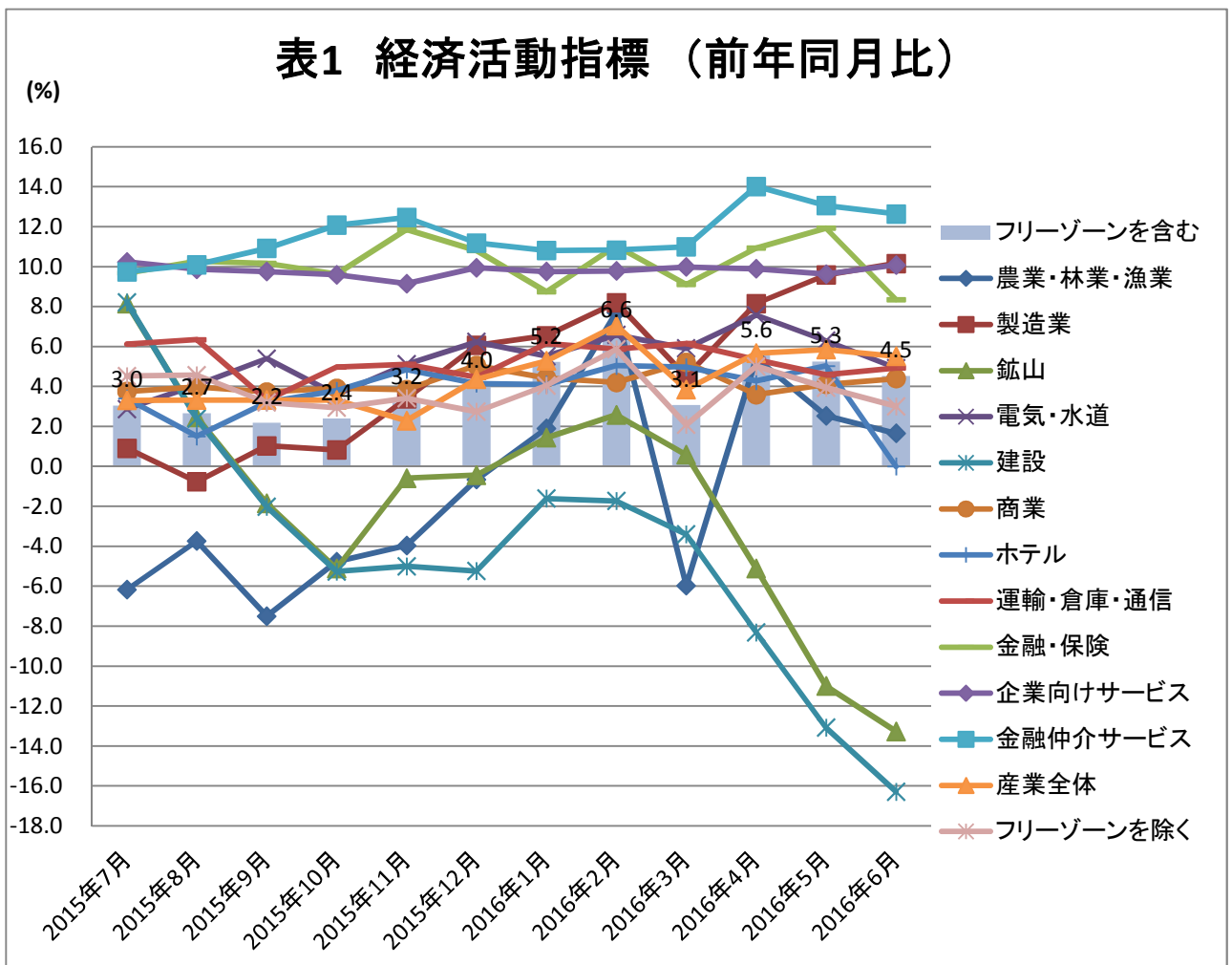
2016年8月

在コスタリカ日本大使館 経済班

※出典：コスタリカ中央銀行、財務省、貿易省(COMEX)及び貿易振興機構(PROCOMER)(4-6月分数値)。主な出来事については当地新聞記事¹による。

1 経済活動指標 (表1)

- 国内主要産業である製造業は、第2四半期も一貫して成長した。これは、フリーゾーンでの医療機具などの生産が好調を維持しているためである。
- 農業に関しては、バナナやメロンなどの生産力は昨年に比べれば回復したものの、米や豆類などの一部の農産物の生産は低調であり、5月から6月にかけては成長が鈍化した。
- 建設に関しては、レベンタソン水力発電所計画やショッピングモールなどの一連の建設計画が終了したため、急速に下落した。鉱山セクターの急下降も同様の理由である。



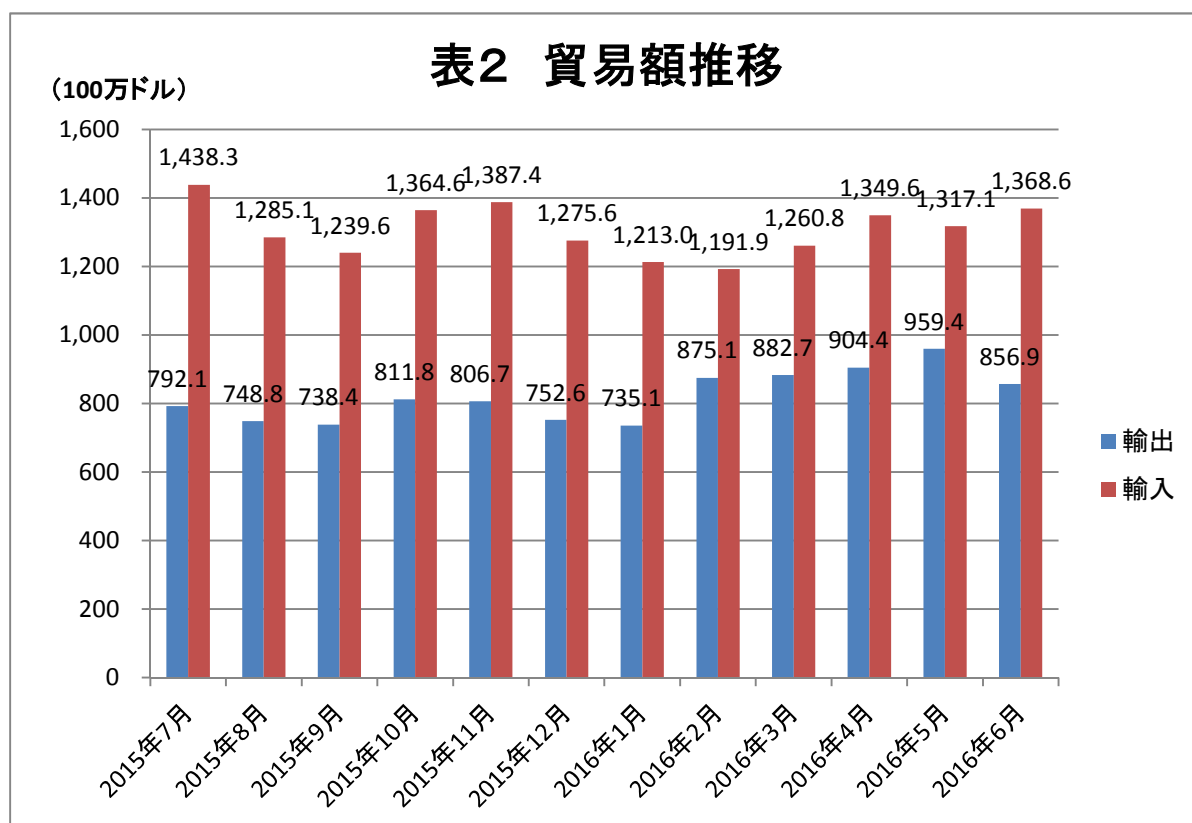
¹ ラ・ナシオン紙、ラ・ブレンサリブレ紙、ラ・レプブリカ紙、エル・フィナンシエロ紙

2 貿易

●輸出額は6月には減少したものの昨年度に比べれば上昇傾向に転じているといえる（表2）。

●年初からの累積貿易額では、対前年比では輸出額が8.7%、輸入額が4.2%増加し貿易収支は4.1%改善された（表3）。

●本年2月から、輸出額の伸び率が輸入額を凌いでおり、貿易赤字は第2四半期も改善傾向にある（表4）。



(100万ドル) 表3 年初からの累積貿易額（対前年同月比）

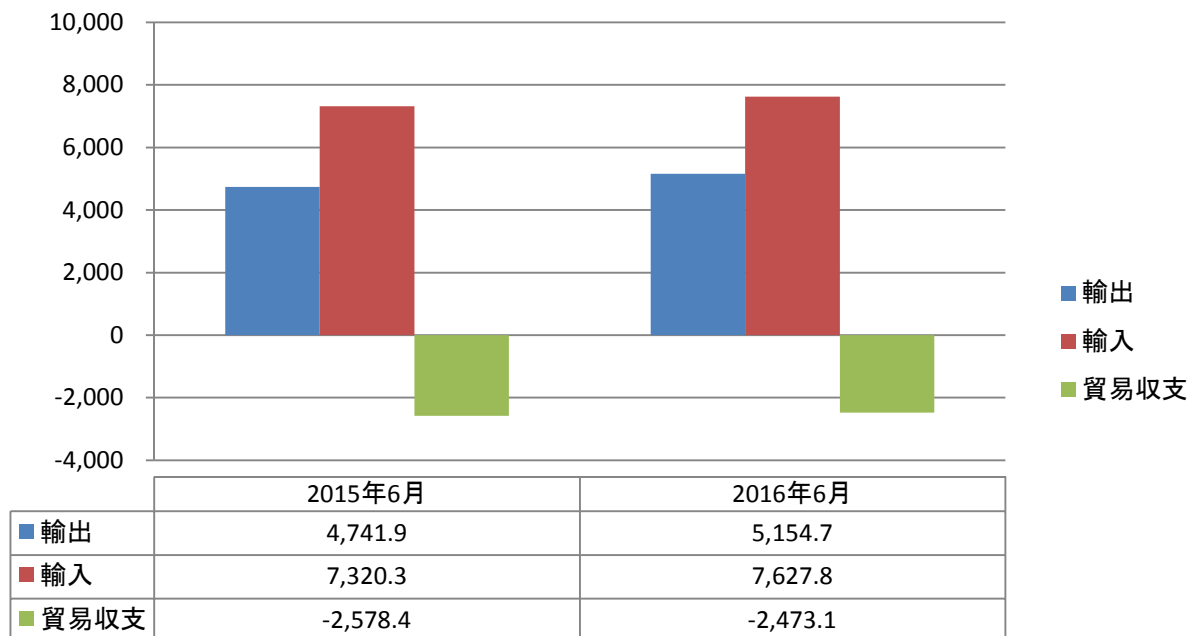
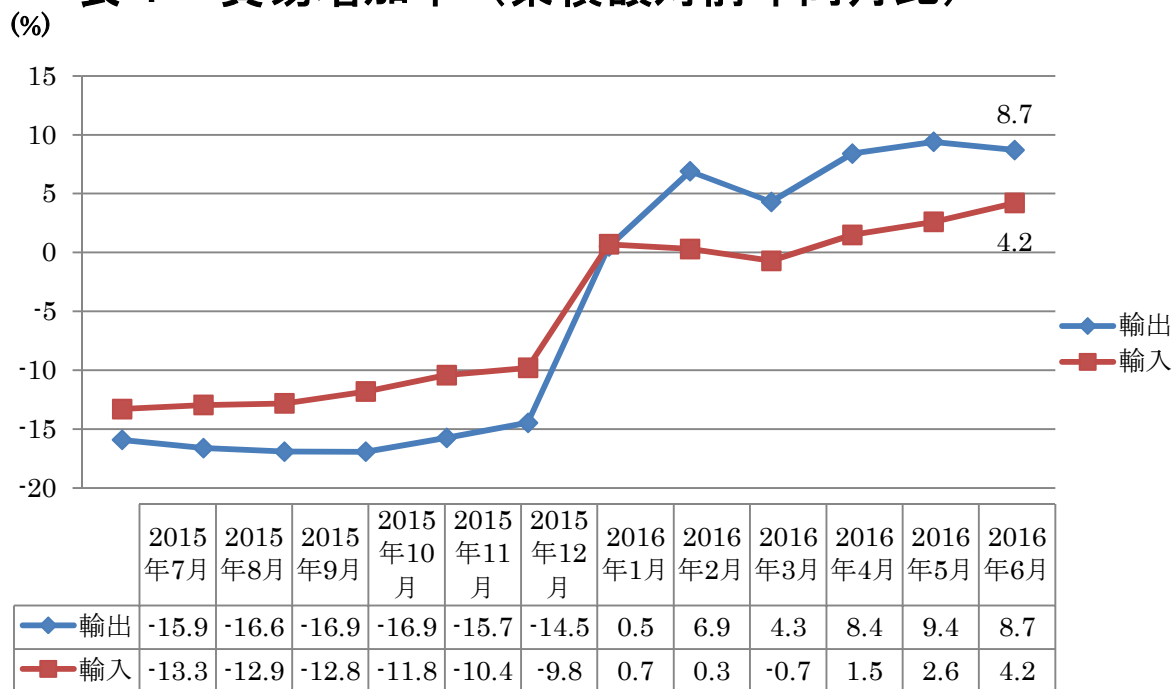


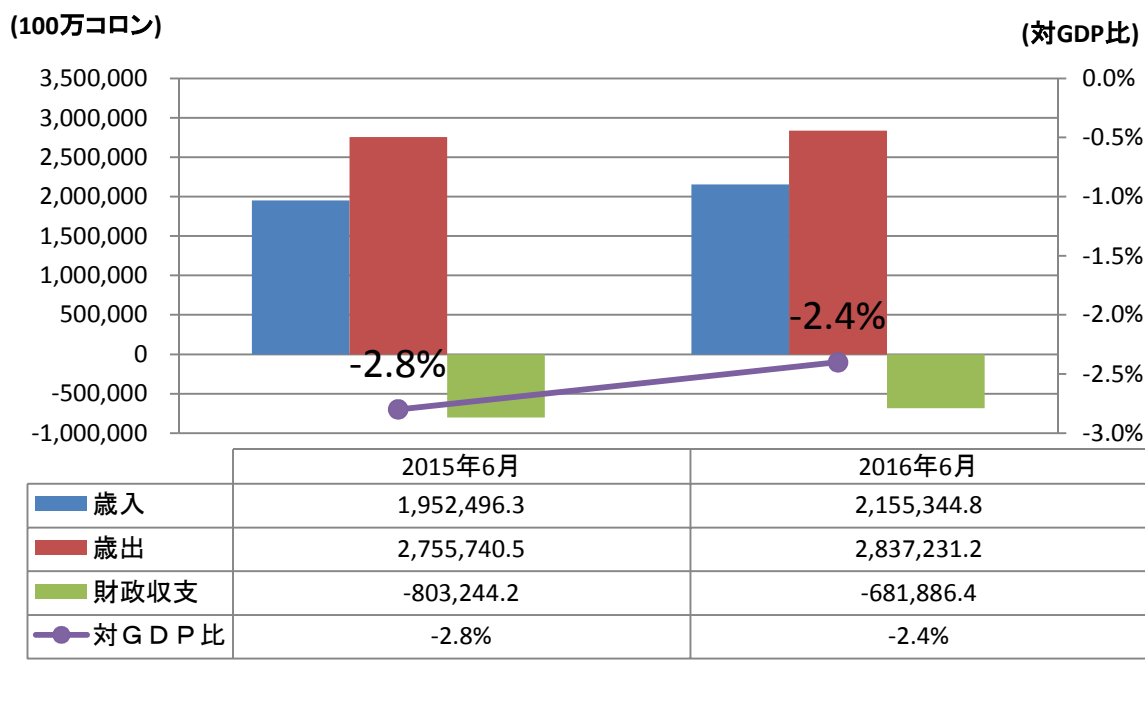
表4 貿易増加率（累積額対前年同月比）



3 財政収支

- 6月までの歳入は対前年同月比で10.3%の伸び、歳出は2.9%の伸びであった。これを受け、第1四半期に続き今期も対GDP比財政赤字は0.4%改善している。
- 対GDP比財政赤字は改善しているものの、2016年の対GDP比財政赤字の予測は6.2%であり昨年より悪化する見通し。国内外からの当国財政に対する評価は依然厳しい。
- 財政赤字削減のための8つの財政改革法案（付加価値税導入、歳出削減、年金改革、徴税強化、脱税防止等）が国会に提出されているが、現段階では密輸対策に関する法案しか可決されていない。

表5 財政収支（累積額対前年同月比較）



4 物価上昇率

● 6月までの消費者物価指数は依然わずかな上昇傾向である(表6)。昨年7月からデフレ基調が続いているが、インフレに向かう動きもある(表7)。本年の政府のインフレ目標値は3%である。

● 昨年の物価下落の原因の一つに原材料費の国際価格の下落がある。大半の食料品の価格が低下したため、消費者の購買意欲は回復した。

表6 消費者物価指数（前年12月からの累計値）

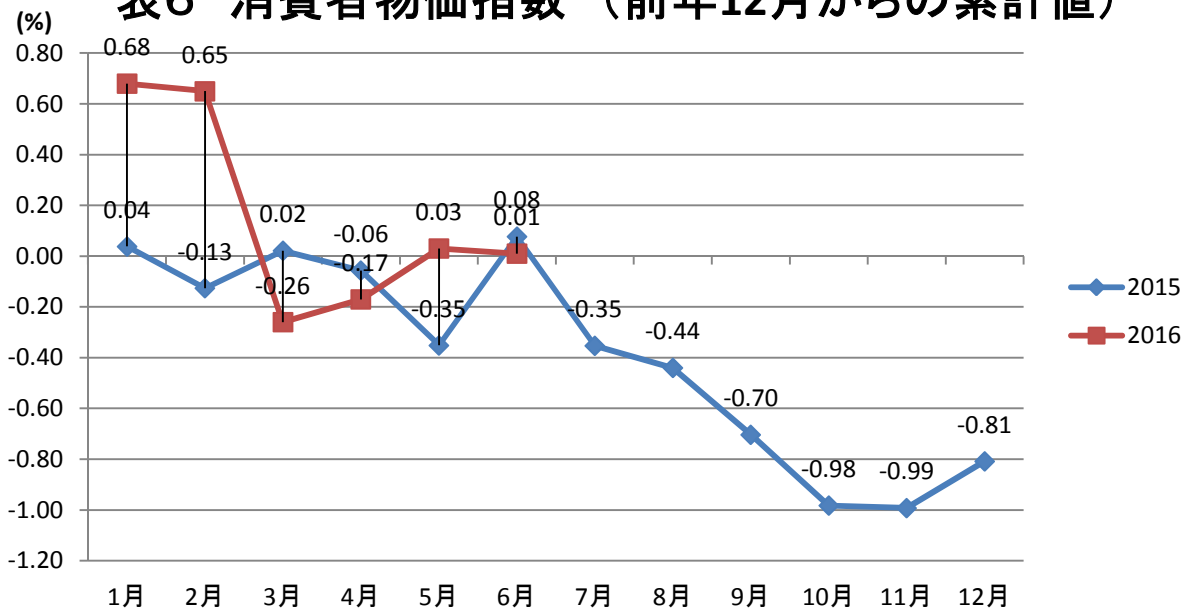
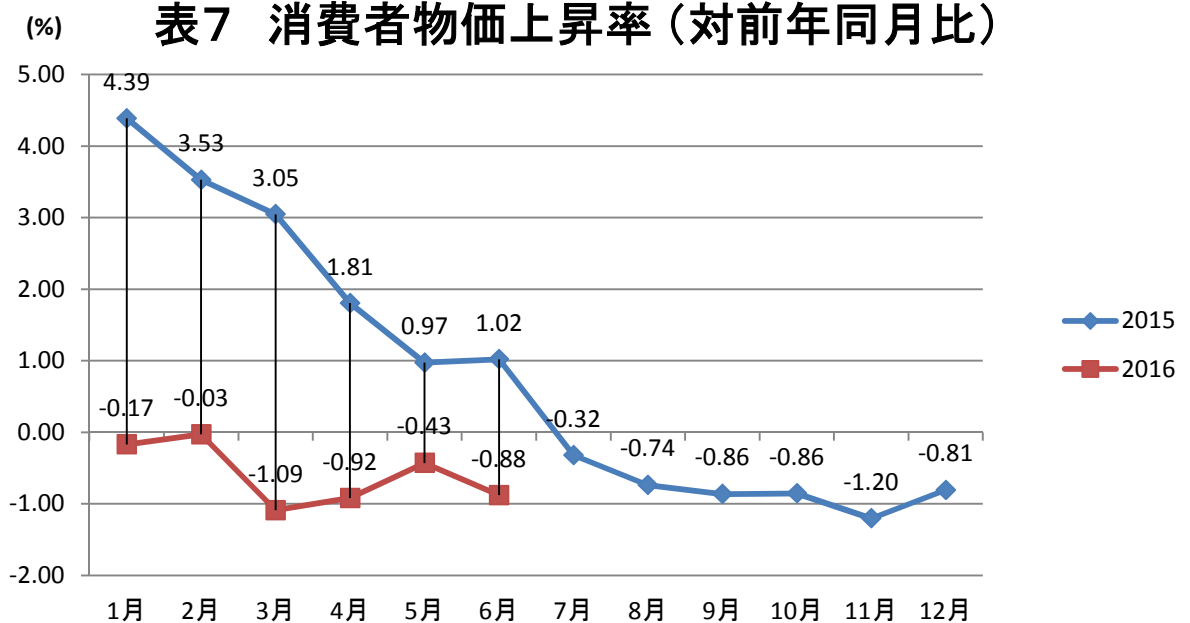


表7 消費者物価上昇率（対前年同月比）



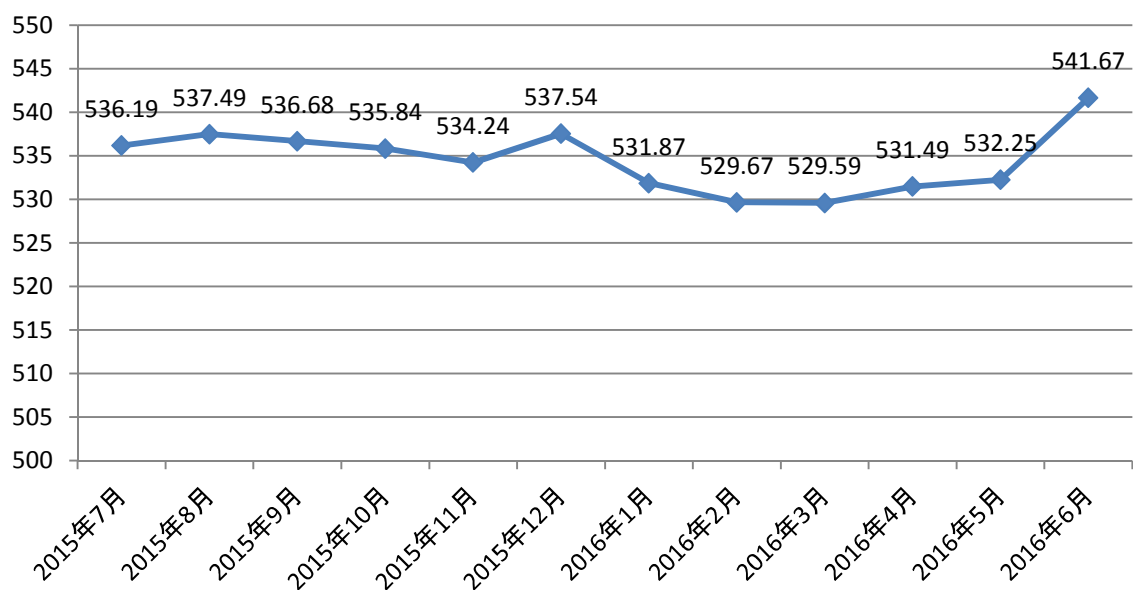
5 為替・金利

(1) 為替レート

●対米ドル為替はドル高・コロン安傾向に転じ、6月には過去2年間で最高値となった(表8)。原油価格や原材料費の上昇等により、ドルの需要が高まったのが原因と考えられる。

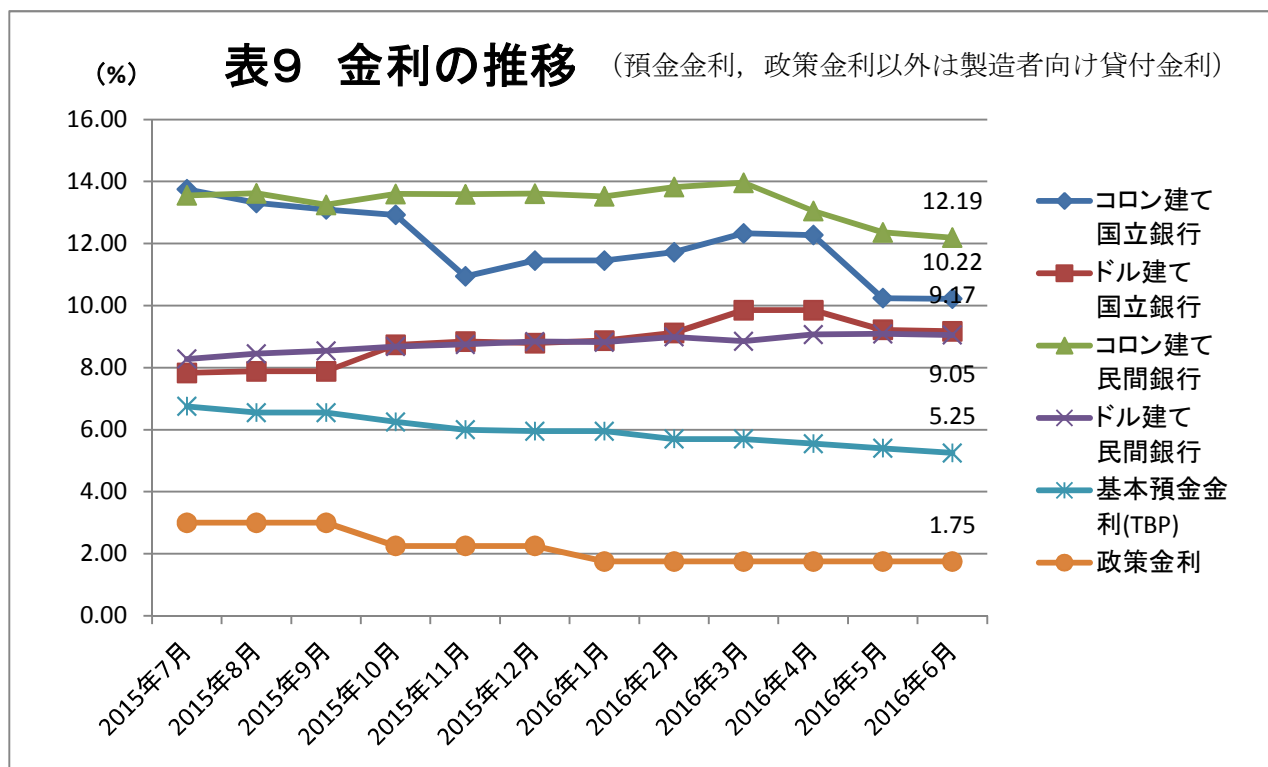
表8 為替(月末値・銀行買値・1米ドルあたり)

(コロン)



(2) 金利(表9)

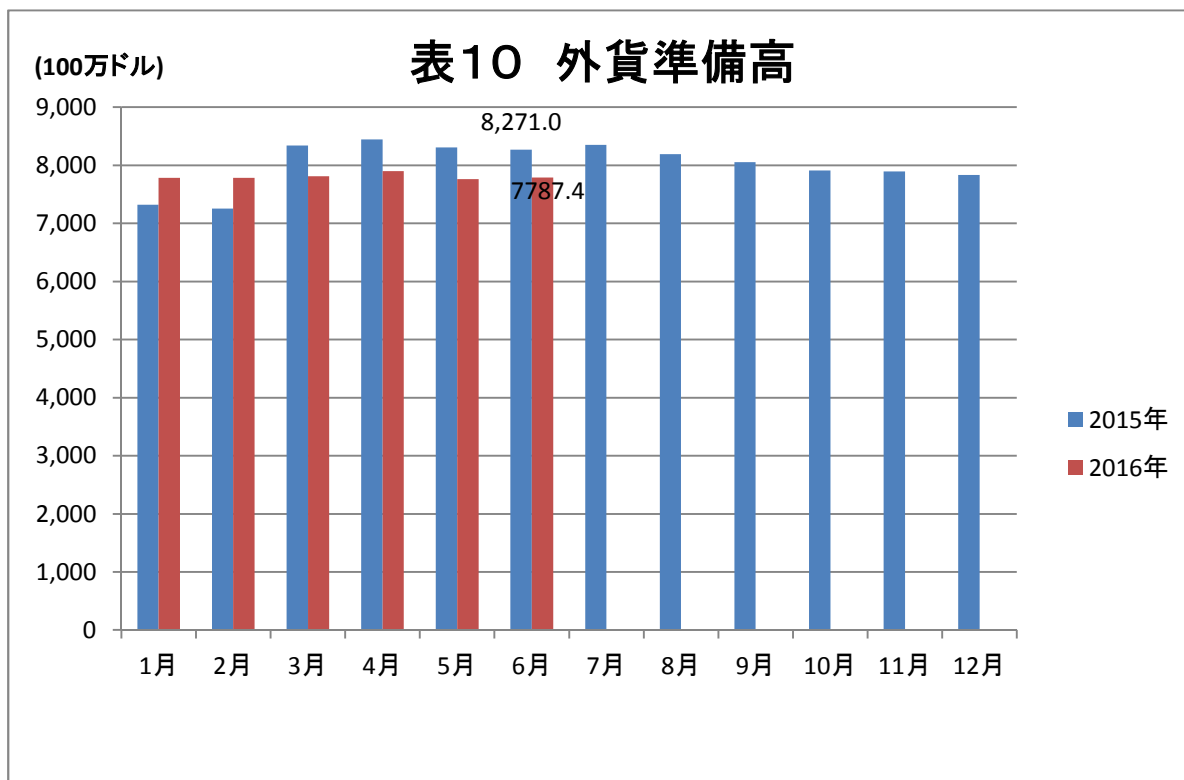
- 基本預金金利は年間を通して段階的に引き下げられ、第2四半期も低下傾向を示した。
- 政策金利について今年は1.75%で一貫している。長期に渡るデフレ傾向に対する対応と考えられる。
- コロンとドルの貸付金利の差は小さくなっている。



6 外貨準備高

●外貨準備高は、輸出や観光業が好調だったこともあり第2四半期もほぼ安定的に推移した（表10）。

●4月から為替がコロン安傾向に転じ、中銀はドル売り介入を継続している。中銀は過度のコロン安を防ぐための外貨準備高は保有していると発表している。



7 主な出来事（出典：当地報道など）

国内経済

● G A F I（マネーロンダリングに関する金融活動作業部会）のコスタリカへの提言（6／17）

G A F I が指摘する資金洗浄対策に非協力的であり、テロリストの資金源となる可能性の高い国々のリストであるグレーリスト13か国に、コスタリカが新たにリストアップされる可能性が浮上している（その後、本年はリストアップをまぬがれるのではないかとの報道があったが、いずれにせよ明年2月に正式発表される予定）。同リストには北朝鮮、アフガニスタン、イラン、イラク、シリア等が含まれている。グレーリストにリストアップされた場合、世界的に信用を失い、経済や財政に深刻な打撃を与えかねない。コスタリカは法体系だけでなく、歴史的にも地政学的にもこれらの問題に対して、総じて脆弱であり、グレーリストにリストアップされることは、O E C D加盟にとって大きなマイナス要素となることも指摘された。

● 中米における負債のある家計の割合（5／27）

C o n s u m e r W a t c h 2016の調査によれば、中米全体で何らかの負債のある家庭の割合を国ごとにランキングしたところ、コスタリカは60%で第一位となった。負債の内訳は、電化製品購入ローンが22%で最も割合が高かった。その原因として、他国に比べてローンの組みやすい消費者金融システムが指摘されている。他方、十分な収入がなくても商品が買えてしまうため負債を完済できない消費者も増えてきている。

一方で、ネット通販の普及率はラテンアメリカ全体で31%であるのに対し、コスタリカは12%とかなりの遅れを取っている。

● バーガーキングの営業再開（6／11）

昨年10月にコスタリカから撤退していた米国の大手ハンバーガーチェーン店バーガーキングの営業再開の見通しが立った。昨年まで当地では29店舗が展開していたが、フランチャイズメンバー間の利害の不一致のために撤退した。今般、新たな経営希望者が現れたことで営業の再開が可能になったという。

● コスタリカ産優良コーヒーの競売に日本人が最高値で落札（6／22）

国際コーヒー連盟(A C E : A l l i a n c e f o r C o f f e e E x c e l l e n c e)の主催する国際的な有料コーヒーのオークションがコスタリカ産のものを対象にインターネット上で行われた。コスタリカが出品した26種に1キンタル(46kg)あたり1,000ドル以上の高値がついた。特に良質のナランホ農園産のものには日本のタカムラコーヒーロースターズが1キンタルあたり5,900ドルの値をつけ落札した。これは、コスタリカ産のコーヒーとしては過去最高値であり、2015年の4,120ドルを大きく上回った。コスタリカ産の

高品質コーヒーの主な買い手は日本、韓国、サウジアラビア、オーストラリアである。

対外経済

●コロンビアとのF T A（4／7）

2013年5月にコスタリカ及びコロンビアの両首脳により署名された同F T Aが発効する見通しとなった（その後、8月1日に発効）。これにより、当国が太平洋同盟正式加盟の前提条件が整う（現加盟国すべてとのF T A締結が正式加盟の条件）。コスタリカからコロンビアへの主要輸出産品は鉛、タイヤ、加工食品、医薬品、人工装具器具、注射器、カテーテルなどの医療器具、金属スクラップ、配管部品等である（当館注：当国で生産されているブリジストンのタイヤやテルモ孫会社のカテーテルが対象になると思われる。）。一方、コロンビアからは医薬品、ポリプロピレン、肥料、カビ薬等の化学薬品、石炭、合成繊維、香水や化粧品などを輸入している。

●ブリティッシュ・エアウェイズ社がロンドン・サンホセ間の直行航空便の運航を開始（4／27）

英国ブリティッシュ・エアウェイズ社は、ロンドン（G a t e w i c k 空港）・サンホセ間の直行便の運航を開始した。これにより欧州への直行便が既存のイベリア航空（マドリッド・サンホセ間）に加えて増加することになった。コスタリカは同社にとって中米初の直行便運航地である。コスタリカは、この就航により、欧州からの観光客の増加と同社が運行便をもつ130の都市へのアクセス拡大の恩恵を受けることが期待される。

欧州からコスタリカへの観光客の規模は、北米地域と中米地域に次いで第3位であるが、平均滞在日数は17泊と最長であり、一人あたり約1,660ドル消費している。

●中国への輸出不振（5／14）

貿易推進機構（P R O C O M E R）は2014年の対中輸出額3億3700万ドルであったのに対し、2015年の輸出額は8100万ドルに落ち込んだと発表した。

その原因としては、第一に2014年まで当地で生産を行い、中国に電子部品を輸出していたインテル社の生産工場の撤退が影響したとされ、その他の要因として、中国側の輸入政策により馬の革製品、バナナの輸出が低下したことが挙げられる。対中輸出の回復に向けて戦略の立て直しが必要とされている。

●米国向けパイナップルへの虫の混入の増加（6／1）

コスタリカ産のパイナップルの約半数が米国に輸出されているが、米国通関に際し虫の混入が発見されたケースが昨年4月までで92件であったのに対し、今年4月までで129件に上昇した。米国からの指摘を受け農牧省（M A G）は出荷時のコンテナの検査を義務づけたが、パイナップル輸出業者からはコンテナを港で検査するスペースや時間的

余裕がないことを理由に反対の声が上がっている。パイナップルは同国の主要輸出品であるため、米国とのじゃがいもに続く新たな貿易摩擦の可能性が懸念されている。

(了)